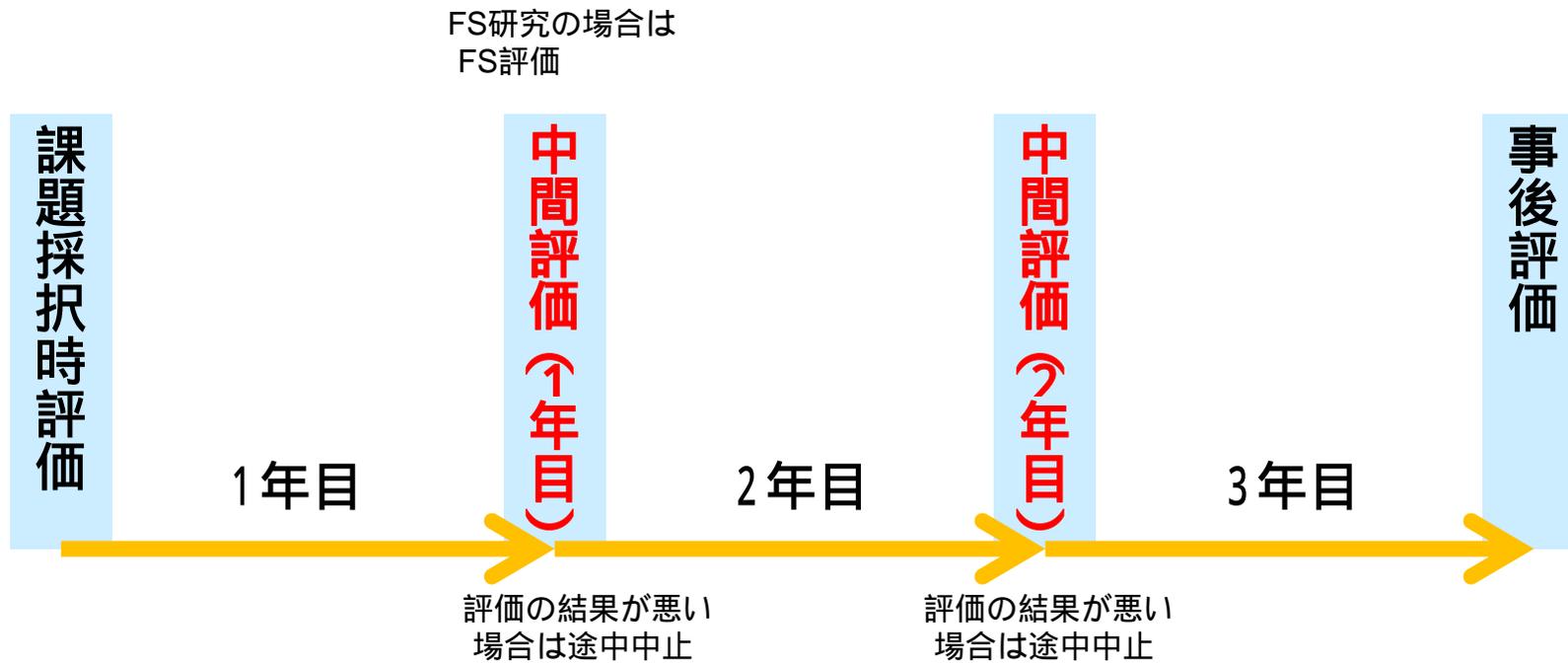


道路政策の質の向上に資する技術研究開発 平成23年度 中間評価について(概要)

1. 中間評価の変更案(概要)
 2. 中間評価の目的
 3. 中間評価の対象
 4. 中間評価の視点及び基準
 5. 提出書類及び期限
 6. 中間評価の体制
 7. 中間評価の手順(スケジュール)
 8. 評価結果の通知及び公表
- 別紙1 評価対象研究 / 評価分科会委員(案)
- 別紙2 研究評価会 議事次第(案)
- 別紙3 研究評価会 / 第17回新道路技術会議 開催日程調整表

1. 中間評価の位置づけ

技術研究開発の採択～評価の流れ



2. 中間評価の目的

中間評価は、新道路技術会議において採択され、実施されている研究の適切な実施を図るとともに、次年度以降の研究費の適正化に資することを目的。

3. 中間評価の対象

中間評価の対象は、複数年度にまたがる研究の最終年度を除く毎年度の研究成果。

4. 中間評価の視点及び基準

(1) 中間評価の視点

(1-1) 1年目の研究課題を対象とした中間評価の視点

中間段階での成果を評価するのではなく、研究の見通しや進捗の評価を目的とする。

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階(a～d)で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の見通し	研究の目的・目標を効率的かつ計画通り達成するため、研究計画、実施方法、体制(研究遂行における研究代表者の主体性の確保を含め)が適切となっているか。
研究の進捗状況	研究の推進にあたり、研究目標の設定、研究計画、実施方法、体制、共同研究者の役割分担が明確になっているか。

評点	説明
a	適切である / 順調である
b	概ね適切である / 概ね順調である
c	やや適切でない / やや順調でない
d	適切でない / 順調でない

(1-2)2年目の研究課題を対象とした中間評価の視点

研究の進捗に伴い、研究成果の見通しの評価に重点を置く。

(特に1年目の評価結果が芳しくなかった研究については、慎重に評価を行う。)

中間評価の視点は次のとおりとし、4段階(a～d)で評価する。

中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、1年目の評価結果を踏まえ、研究は適切に進捗しているか。
研究成果の見通し	当初計画通りの研究成果が期待できるか(研究の進展により、独創的、画期的な研究成果が期待できるか)。また、研究成果の活用方策が明確になっているか。

評点	説明
a	順調である / 大いに期待できる
b	概ね順調である / 大いに期待できる
c	やや順調でない / あまり期待できない
d	順調でない / 期待できない

(2) 中間評価の基準

中間評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究継続の妥当性について4段階(A～D)で総合的に評価。

評点	区分	説明
A	現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B	現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C	研究計画を修正の上 推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D	中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

中間評価シート(1年目の研究対象(左)、2年目の研究対象(右))

【様式1】 - 1

中間評価シート(1)(1年目の研究対象)

評価分科会委員	
---------	--

番号	研究名	研究代表者

1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の進捗状況	a 順調である	
	b 概ね順調である	
	c やや順調でない	
	d 順調でない	
研究の見通し	a 適切である	
	b 概ね適切である	
	c やや適切でない	
	d 適切でない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 現行のとおり推進	
B 現行のとおり推進(指摘事項あり)	
C 研究計画を修正の上推進	
D 中止	

2. 特記事項

(研究計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

【様式1】 - 2

中間評価シート(2)(2年目の研究対象)

評価分科会委員	
---------	--

番号	研究名	研究代表者

1. 中間評価の結果

中間評価の視点	評点	意見
研究の進捗状況	a 順調である	
	b 概ね順調である	
	c やや順調でない	
	d 順調でない	
研究成果の見通し	a 大いに期待できる	
	b ある程度期待できる	
	c あまり期待できない	
	d 期待できない	

研究継続の妥当性評価	意見
A 現行のとおり推進	
B 現行のとおり推進(指摘事項あり)	
C 研究計画を修正の上推進	
D 中止	

2. 特記事項

(研究計画の修正を要する場合の修正内容、今後の研究計画・方法への指摘事項等。)

5. 提出書類及び期限

赤字は昨年度からの主な変更点

<p>(1) 提出書類</p> <p>各研究の研究代表者は、以下の書類を提出 「研究状況報告書」 「研究開発年次計画・経費に関する調書」 「研究概要(パワーポイント原稿4枚で作成)」 【主な記載事項】 (1年目の研究) 研究内容(研究名、体制、概要等)、見通し、進捗状況等 (2年目の研究) 研究内容(研究名、体制、概要等)、進捗状況 (1年目の中間評価指摘事項への対応等)、成果の見通し等</p> <p>上記の詳細は右記参照。 は会議用・公表用資料として使用予定。</p>	提出書類	項目	1年目	2年目
		1.研究代表者	氏名、所属、役職	
		2.研究テーマ	名称、政策領域、公募タイプ	
		3.研究経費	各年度の委託額/計画額	
		4.研究者氏名	研究代表者以外の主な研究者氏名、所属、役職	
		5.研究の目的・目標	提案書に記載した研究の目的・目標	
		6.これまでの研究経過	研究の進捗状況	
			研究計画、実施方法、体制の妥当性	-
		7.研究成果の発表状況	-	国際会議、学会等の発表状況
		8.研究成果の活用方策	-	成果の活用方法・手段等
		9.特記事項	研究の見通し・進捗の自己評価等	成果の見通しの自己評価等
		10.研究遂行上の問題点等	問題点及びその解決方法、見通し、要望等	
11.次年度以降の研究計画	H24年度(以降)の研究計画・方法、外注の有無			
12.研究遂行における外注の実施	外注の目的、必要性、範囲等			
<p>(2) 提出期限</p> <p>平成24年1月25日(水)必着</p> <p style="text-align: right;">提出書類 10.-12.は非公表</p>	提出書類	1.全体研究計画	研究項目・年度毎の研究経費(直接・間接経費含む税込額)	
	2.H24年度計画	研究の概要、内容		
	3.H24年度必要経費概算	委託事務処理科目区分に基づく経費概算額		

6. 中間評価の体制

評価対象研究(4課題)をソフト及びハード分野に区分し、2つの分科会を設置(P.8(別紙1)参照)。

各分科会は、新道路技術会議委員(7~8名程度)、行政官(1名)、研究官(1名)で構成。

各分科会の分科会長は、新道路技術会議委員の中から選出。

7. 中間評価の手順(スケジュール)

中間評価の手順は、次のとおり。

書類の事前査読(書面による評価) (～2月上旬)

- 事前査読は実施するが、書面による評価の実施は任意とする。
- 委員からの質問・コメントがある場合は、研究評価会に向けて研究代表者へ事前に連絡。

研究評価会の開催(ヒアリングによる評価) (2月中旬)

- 分科会毎に研究評価会を開催(1課題あたりの時間は、報告20分、質疑20分、審議10分)(P.9(別紙2)参照)
- 報告・質疑を踏まえ、分科会各委員は各課題の中間評価シートを作成。
- 各委員からの中間評価シートを基に、中間評価(案)を作成するための審議を実施。

中間評価(案)の作成 (～2月下旬)

研究評価会后、分科会長は中間評価(案)を作成。

中間評価の決定 (2月末～3月初め)

年度内に翌年度の継続可否を確定し、研究代表者に連絡

新道路技術会議において中間評価(案)を審議し、合議により中間評価を決定。

8. 評価結果の通知及び公表

中間評価結果は研究代表者に書面にて通知し、道路局ホームページ等において研究状況報告書、研究概要と併せて公表(3月上旬頃予定)。

分科会	領域	タイプ	採択年度	委託研究名	委託先	研究代表者	評価分科会委員(案)
ソフト分野	3		H 22	都市高速道路における突発事象時の最適交通運用についての研究開発	(社)交通工学研究会	(社)交通工学研究会 理事 神戸大学大学院 教授 朝倉 康夫	赤羽委員 石田委員 川崎委員 竹内委員 中越委員 根本委員 森川委員
	6		H 22	混合交通流の自動解析に基づく交通安全性・円滑性評価手法および交通制御・道路運用手法の構築	京都大学	京都大学大学院 准教授 須崎 純一	吉川委員 道路局担当官 国総研道路研究官
ハード分野	8		H 22	非破壊検査のための非接触音響探査法についての研究開発	桐蔭横浜大学	桐蔭横浜大学 教授 杉本 恒美	清野委員 柴崎委員 末岡委員 谷委員 二羽委員 前川委員 森委員
	8		H 22	新たな超高周波電磁波を用いた道路建造物欠陥診断の研究開発	東北大学	東北大学大学院 教授 小山 裕	道路局担当官 国総研道路研究官

研究評価会 ソフト/ハード分科会
議事次第(案)

日時:平成24年2月中旬頃(予定)
2時間程度

場所:霞ヶ関周辺(予定)

1.開会

2.挨拶、実施方法の説明(00:00~00:10)

3.研究報告(1課題あたり40分)

1)研究課題1(00:10~00:50)

2)研究課題2(00:50~01:30)

~休憩(10分)~

4.中間評価の実施(01:40~02:00)

1)研究継続の妥当性評価について

2)中間評価(案)のとりまとめについて 等

5.閉会(02:00頃)

20分報告(パワーポイント使用予定)
20分質疑応答
約10分審議

開催日程の調整についてはP.9別紙3参照。

研究評価会 / 第17回新道路技術会議 開催日程調整表

別紙3

ご都合を × でご記入下さい(評価会2月中旬頃、会議2月末～3月初め頃目途)。参加時間が限られている場合は併せてご記入下さい。

	2月												3月							
	13月 午前/後	14火 前/後	15水 前/後	16木 前/後	17金 前/後	20月 前/後	21火 前/後	22水 前/後	23木 前/後	24金 前/後	27月 前/後	28火 前/後	29水 前/後	1木 前/後	2金 前/後	5月 前/後	6火 前/後	7水 前/後	8木 前/後	9金 前/後
三木委員長																				
ソフト分野																				
赤羽委員																				
石田委員																				
川崎委員																				
竹内委員																				
中越委員																				
根本委員																				
森川委員																				
吉川委員																				
ハード分野																				
清野委員																				
柴崎委員																				
末岡委員																				
谷委員																				
前川委員																				
二羽委員																				
森委員																				

本日の結果を踏まえ、欠席委員に確認の上、最終的な開催日程を調整予定(日程確定後、電子メールにてご報告予定)。